

経営比較分析表（平成30年度決算）

熊本県 宇土市

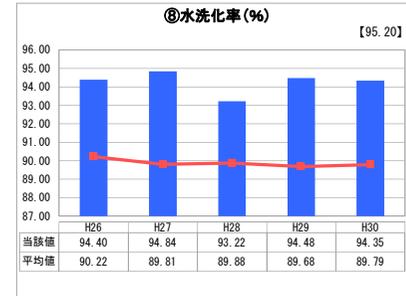
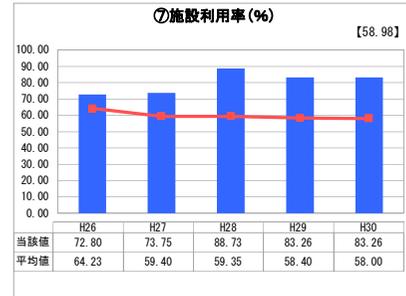
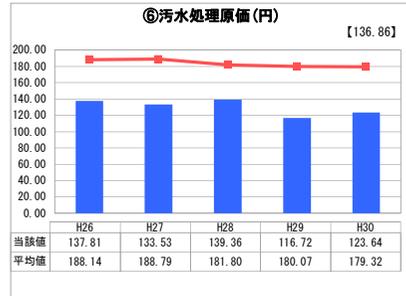
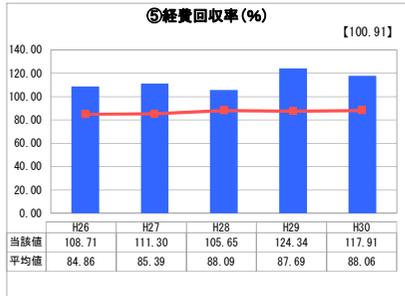
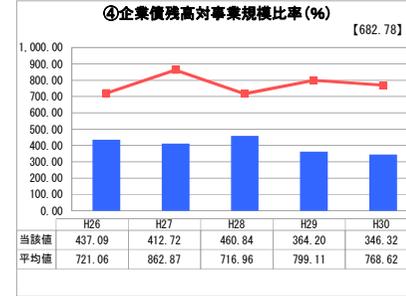
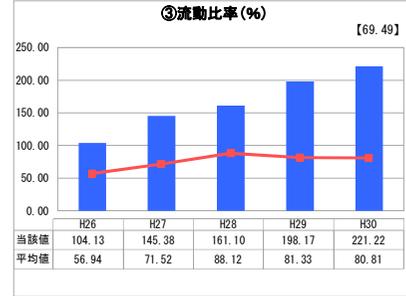
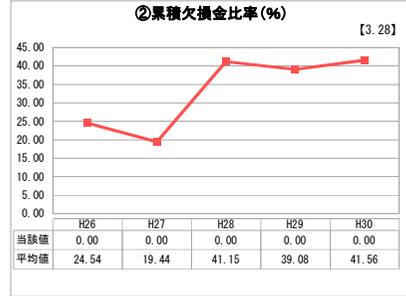
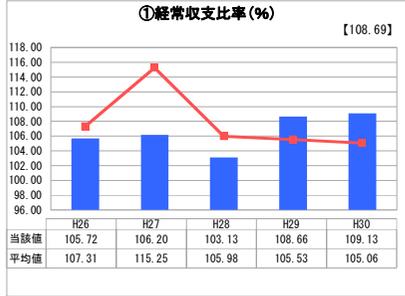
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Cc1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	63.45	75.24	79.88	3,000

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
37,345	74.30	502.62
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
28,060	7.94	3,534.01

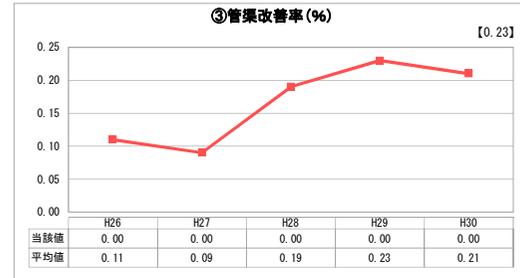
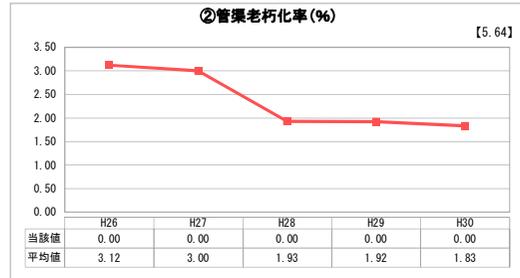
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は100%を上回っており、類似団体と同様の水準であり経営は堅調に推移している。
 ②累積欠損金は毎年黒字であるため0%である。
 ③流動比率は100%を上回っており現金は十分確保されている。
 ④企業価値は毎年償還額を上回らないことを前提に借入を行っている。類似団体より低い数値となっており、今後もこの状態を維持できるよう投資規模、料金水準とのバランスに留意していく必要がある。
 ⑤経費回収率は100%を上回っており、類似団体に比べると高い水準であり健全性は保たれている。
 ⑥汚水処理原価は類似団体より低い水準である。今後施設の老朽化に伴い修繕費等が増加する見込みであるため、更新事業を取り入れながら維持管理費を減少していく必要がある。
 ⑦⑧施設利用率・水洗化率ともに高止まり傾向である。今後は人口減少に伴い低下する見込みであるため、広域化や規模の縮小を検討しなければならない。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は年々微増している。今後更新時期を迎える管渠や施設が発生する見込みのため、建設改良費における積立金を増加するよう努めたい。
 ②管渠老朽化率は0%と、法定年数を越えた管渠は発生していない。平成29年度からストックマネジメント実施方針を策定しており、老朽化した施設も踏まえて事業費の平準化を図り計画的な更新事業に取り組みたい。
 ③管渠改善率は0%である。管渠及び処理場において、令和2年度からストックマネジメント計画に基づいて改築・更新を行っていく予定である。

全体総括

本市では、処理場及びポンプ場において老朽化に伴う更新事業を行っており多額の経費が発生している状態である。また一般会計繰入など使用料以外の収入で賄っている経営状況であるため、一般会計に頼らない経営を目指すため、経費削減、収益上昇に努めなければならない。今後包括的な民間委託や広域連携など経営手法を検討し、効率的に事業を進めていく。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。